

湘南藤沢学会「研究助成基金」成果報告書

慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 藤川保徳
環境情報学部 渡辺 昌、森田 健人、花形 慎、藤波 秀麿、佐野 虎太郎、
平井 誠之
総合政策学部 藤井 樹里

活動の名称：IVRC 決勝大会 プロジェクト名：電子転生

活動の概要：このコンテストの狙いは、参加者が作品を企画・制作し完成させることで、インタラクティブ・VR技術をより深く理解してもらうことにあります。IVRCはコンテストという形態をとっていますが、行政・企業・学会が一体となって「自ら考え・学び・手を動かすことのできる」優秀な人材を育成する、21世紀的な体験型教育システムでもあります。その実績は国際的にも高く評価され、世界最高峰のVR技術の展示会 SIGGRAPH や、VRアート作品の展示会 ARS Electronica などに多くの作品が採択されています。

今回我々が発案しました「電子転生」というVRは「VRを体験中に異世界へとユーザーを誘うことはもちろんのこと、VR体験後のユーザーの振る舞いに影響を与えるものを作れないか。」という過去に先例のないVRを予選大会にて発表し、見事、評価を得ることができ、決勝へと駒を進めました。

日時：設営:10月28日(金) 展示:10月29日(土), 10月30日(日)

場所：日本科学未来館

概要：

「VR体験後のユーザーの振る舞いに影響を与えるものを作れないか。」という過去に先例のないVRを開発しました。テーマには入館体験というVRとは懸け離れたテーマとVRを融合させることで、ただただ、楽しい、おもしろいVRで体験終了するのではなく、今回のVR体験が将来的なユーザーの原体験となりうるものを作り出すことを目標とし、製作しました。その他、従来学会活動だけでは得られない多様な分野からの評価獲得および人脈の構築であったり、ORFやXD Exhibition、研究室主催の個展に向けた、分野横断型のエンターテインメント/プラットフォームづくりに関する知見の獲得もできました。

体験の流れとしては、暗幕ブースの中に設置された棺桶にユーザーが入棺します。内部では、味覚を除いた視覚、聴覚、臭覚、触覚4感を刺激すべく、様々なアクチュエーターが設置されています。体験順序としては、まず、葬儀方法としては(火葬、土葬、水葬、宇宙葬)の4つのオプションからユーザーは選択することができます。

入棺直後に内部スピーカーからお経、すすり泣く声が聞こえ出し、霊柩車で運ばれる音声が流れます。その際に車内の騒音とともに棺桶自体が揺れ出し、ユーザーにまるで本当に霊柩車に乗っているかのような体験をさせます。その後、選択された葬法に従って音声が流れ出します。その後、「死ぬ瞬間」「生き返る瞬間」を棺桶に設置されたエアベッド内部の空気量を制御することで表現しました。最後に胎内での音が流れ始め、出産シーンの音声が聞こえ出し、転生したという体験を表現しています。

審査員の方々からは、「いままでVRといえば、HMDを使用することが一般的であることに対して、電子転生はアナログのみで体現させた新しいタイプのVR」ということで評価をいただきました。



参考画像：暗幕ブースと内部の入棺体験デバイス